

世 界 史

注 意

1. 問題は全部で 24 ページである。
2. 解答用紙は(その 1)(その 2)がある。解答用紙(その 1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 問題 **Ⅲ** は法学部 A 方式受験者と国際政治経済学部受験者とで異なるので注意すること。
5. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HB の黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の ○ を塗りつぶすこと。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が 1 のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

I

ヨーロッパのある国に関する(a)から(g)の記述を読み、問1から問17までの設問に答えなさい。

- (a) アジア、アフリカ、アメリカへの進出を図って、東インド会社と西インド会社を設立した。
- (b) 域内の関税撤廃と輸出関税の共通化を目指して、他の5か国とともにヨーロッパ経済共同体を発足させた。
- (c) 宗教対立に起因するこの戦争の結果、スペインからの独立が国際的に認められた。
- (d) この大戦での中立を維持することができず、ドイツの占領下に置かれた。
- (e) 植民地として支配していたインドネシアの独立に最終的に合意した。
- (f) この戦争でオーストリア・イギリスと連合してフランスと争い、フランスに勝利した。
- (g) 植民地におけるプランテーション経営政策として強制栽培制度を導入した。

問1 (a)から(g)の記述として適切なヨーロッパの国の名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問2 (a)から(g)の記述を古いものから年代順に並べたものとして適切な選択肢を次の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 1 にマークしなさい。

- 1 (c)→(a)→(f)→(g)→(d)→(e)→(b)
- 2 (a)→(c)→(g)→(f)→(d)→(b)→(e)
- 3 (c)→(a)→(g)→(f)→(d)→(b)→(e)
- 4 (a)→(c)→(f)→(g)→(d)→(e)→(b)
- 5 (c)→(a)→(f)→(g)→(d)→(b)→(e)

問 3 (a)の記述に関連して、この国の世界進出と共に発展した天文学の分野で活躍し、土星の環を発見したと伝えられているこの国の人物を次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **2** にマークしなさい。

- | | |
|-------------|---------|
| 1 ケプラー | 2 ホイヘンス |
| 3 ガリレオ・ガリレイ | 4 ニュートン |
| 5 グロチウス | |

問 4 (a)の記述に関連して、この国が占領した地域として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **3** にマークしなさい。

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1 セイロン島 | 2 東ティモール | 3 ケープ植民地 |
| 4 マラッカ | 5 台湾 | |

問 5 (a)の記述に関連して、北アメリカ東岸に領有した植民地に建設された都市の現在の名称を、解答用紙(その2)に記入しなさい。

問 6 (b)の記述に関連して、ヨーロッパ経済共同体の発足に関わらなかった国を次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **4** にマークしなさい。

- | | | |
|--------|--------|-----------|
| 1 イギリス | 2 イタリア | 3 ルクセンブルク |
| 4 フランス | 5 ベルギー | |

問 7 (b)の記述に関連して、ヨーロッパ経済共同体を発展させた地域統合機関であるヨーロッパ連合の最も新しい加盟国の国名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問 8 (c)の記述に関連して、この戦争に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **5** にマークしなさい。

- 1 ベーメン新王フェルディナントの新教派抑圧に対する新教派の反乱をきっかけにこの戦争が開始された。
- 2 ヴァレンシュタインが傭兵隊長として新教派の側に立って活躍した。
- 3 新教国スウェーデンを率いたグスタフ・アドルフはこの戦争の途中で戦死した。
- 4 旧教国フランスが神聖ローマ帝国を打倒するために参戦した。
- 5 この戦争の講和条約の結果、ヨーロッパにおける主権国家体制が確立したとされる。

問 9 (c)の記述に関連して、この戦争の結果として国際的に独立が認められたヨーロッパのもう1つの国を次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **6** にマークしなさい。

- 1 ルクセンブルク 2 エストニア 3 アルバニア
- 4 デンマーク 5 スイス

問10 (d)の記述に関連して、この国と同じようにこの大戦で中立を維持することができず、ドイツの占領下に置かれた国として適切なものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **7** にマークしなさい。

- 1 ノルウェー 2 フィンランド 3 アイルランド
- 4 ルーマニア 5 ハンガリー

問11 (d)の記述に関連して、この大戦でドイツに降伏し、その後フランスの南半分の統治を任された人物の名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問12 (e)の記述に関連して、この国の中南米における植民地として最も適切なものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **8** にマークしなさい。

- | | | |
|--------|--------|------|
| 1 スリナム | 2 ハイチ | 3 チリ |
| 4 ブラジル | 5 キューバ | |

問13 (e)の記述に関連して、インドネシアの独立を指導し、初代大統領となった人物の名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問14 (f)の記述に関連して、この戦争でイギリスが獲得した地域として適切でないものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **9** にマークしなさい。

- | | |
|----------|--------------|
| 1 フロリダ | 2 アカディア |
| 3 ジブラルタル | 4 ニューファンドランド |
| 5 ミノルカ島 | |

問15 (f)の記述に関連して、この戦争当時のフランスの国王の名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問16 (g)の記述に関連して、東インド総督として強制栽培制度を導入した人物として適切なものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **10** にマークしなさい。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 サミン | 2 ファン・ボイ・チャウ |
| 3 クライヴ | 4 ファン・デン・ボス |
| 5 セシル・ローズ | |

問17 (g)の記述に関連して、現地の農民に対して栽培を強制した商品作物として適切でないものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 11 にマークしなさい。

1 米

2 サトウキビ

3 茶

4 藍

5 コーヒー

II

次の文章を読み、問1から問17までの設問に答えなさい。

1949年10月に中華人民共和国政府が樹立されると、ソ連はただちにこれを承認した。中国とソ連の間では中ソ友好同盟相互援助条約が締結された。1950年6月に朝鮮戦争が勃発し、アメリカ軍を主体とする国連軍が北上してくると、中国共産党はソ連の参戦要請に応じ、中国人民義勇軍の派兵を決断した。1954年以降、ソ連は中国の第一次五ヶ年計画の策定・実施に対して援助を与えるなど、本格化し始めた中国の国家建設をさまざまに支援し、中ソ蜜月時代が訪れた。

しかし、1956年2月、ソ連共産党第20回党大会で によるスターリン批判が行われたことを一つの契機として、中国はソ連に対して批判的な姿勢を見せるようになった。両者の対立は、やがて経済政策や対外政策をめぐるイデオロギー論争に発展し、特に1968年8月のソ連のチェコスロヴァキア侵攻以後、中国はソ連を「社会主義帝国」と呼ぶようになり、ついに1969年3月、東部国境地帯で武力紛争が生じるに至った。事件後、中国共産党指導部内では、対外戦略の再検討が行われ、アメリカとの関係改善が図られた。

中ソ関係は、国境での衝突防止に関する合意は達成されたものの、長期間にわたり進展しなかった。1987年11月、ゴルバチョフ書記長が社会主義諸国間においても平和共存という原則を遵守することの必要性を主張するに至って、ようやく中ソ関係改善の実質的な前進をみた。こうして1989年5月、ゴルバチョフ書記長が訪中して との間に歴史的な中ソ和解が実現した。ここで中ソ関係は平和共存五原則に基づくことが確認された。国境画定作業の事実上の終了が宣言されたのは、ソ連崩壊後の1997年11月のことであった。

問1 下線部①に関連して、中華人民共和国政府の成立当初これを承認した国として誤っているものを、次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の にマークしなさい。

- | | | |
|--------|---------|--------|
| 1 インド | 2 東ドイツ | 3 イギリス |
| 4 フランス | 5 ブルガリア | |

問 2 下線部②に関連して、中ソ友好同盟相互援助条約に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 13 にマークしなさい。

- 1 この条約は1950年2月にモスクワで締結された。
- 2 この条約の締結によって、中国は社会主義圏に属する姿勢を明らかにした。
- 3 この条約の締結によって、中国はソ連から安全保障を獲得することになった。
- 4 この条約の締結に続き、1950年5月、中華人民共和国は北朝鮮との間で中朝友好同盟相互援助条約を締結した。
- 5 この条約は、その後の中ソ関係の影響を受け、1980年に解消された。

問 3 下線部③に関連して、朝鮮戦争の経過に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 14 にマークしなさい。

- 1 ソ連の支持を受けた北朝鮮の韓国に対する全面攻撃によって始まった。
- 2 この戦争勃発の直後、軍事力で劣る韓国は総崩れとなり、釜山周辺の地域にまで追い込まれた。
- 3 仁川上陸作戦を成功させた国連軍は敗走する北朝鮮軍を追って北緯38度線を超え、北朝鮮の打倒を目指した。
- 4 中国の参戦により戦勢は逆転し、ソウルは再び共産陣営に奪われた。
- 5 1951年春から戦線は北緯38度線付近で膠着状態になり、1953年7月に締結された平和協定をもって戦闘は終結した。

問 4 下線部④に関連して、朝鮮戦争への参戦決定を主導し、後に中国の経済、外交政策の策定に中心的な役割を果たした人は誰か。この人物の名前を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問 5 下線部⑤に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の にマークしなさい。

- 1 中華人民共和国は、建国に際して採択した共同綱領の中で、社会主義建設を国是として掲げた。
- 2 朝鮮戦争を通じ、貧弱な装備に危機感を抱いた中国共産党指導部は、軍事工業を軸にした急速な工業化を進めようとした。
- 3 都市では、戦時体制下の増産と節約運動の結果、民間企業に対する統制が格段に厳しいものになった。
- 4 農村では、土地改革の結果、大量の過小規模経営が発生し農業生産が低迷し、早急な対策を迫られていた。
- 5 社会主義化の進め方をめぐり、中国共産党指導部の中では分裂が生じ、一部の地方幹部が「反党活動」を理由に処分された。

問 6 に入る人名を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問 7 下線部⑥に関連して、スターリン批判とその影響に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の にマークしなさい。

- 1 国内政治的には、保守派を追い落とし、改革者としてのイメージを作り上げようとする意図が込められていた。
- 2 対外的には、スターリン時代末期に、硬直化した外交姿勢により悪化していた東西関係の緊張緩和を狙っていた。
- 3 1956年6月、ポーランドのポズナニでは、生活苦や自由の抑圧に不満を高めた労働者・学生らによる暴動が発生した。
- 4 1956年10月、ハンガリーでは、首都ブタペストで、知識人・学生・労働者たちによる反ソ・反政府運動が起こった。
- 5 中国共産党の批判を受けたソ連共産党は、その直後に中国に派遣していた技術者らを帰国させた。

問 8 下線部⑦について、イデオロギー論争の主要な争点として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **17** にマークしなさい。

- 1 現代世界の基本的矛盾の問題
- 2 戦争と平和の問題
- 3 暴力革命と平和移行の問題
- 4 一党制と多党制の問題
- 5 階級闘争の存続の問題

問 9 下線部⑧の原因として、チェコスロヴァキアで始まった共産党主導による政治・経済の改革運動は何か。正しい語句を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問10 下線部⑨に関連して、武力紛争をめぐる事情の説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **18** にマークしなさい。

- 1 事件は、ソ連国境警備部隊の攻撃に対する中国軍の反撃によって発生した。
- 2 事件の背景は、珍宝島(ダマンスキー島)の領有をめぐる争いにあった。
- 3 事件直後の中国では、都市部に防空壕を張り巡らすなど、国民を総動員してソ連に対抗するための戦備体制が形成された。
- 4 1969年4月から8月にかけて、中国西部の新疆地区でも両国の国境紛争が続発した。
- 5 1969年9月、周恩来首相とコスイギン首相との間で衝突防止への合意が達成された。

問11 下線部⑩の結果として、1972年2月に訪中を果たしたアメリカの大統領の名前を次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **19** にマークしなさい。

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1 レーガン | 2 ケネディ | 3 ニクソン |
| 4 ジョンソン | 5 フォード | |

問12 下線部⑪に関連して、この時期における中国をとりまく国際関係の説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **20** にマークしなさい。

- 1 米中両国は対立関係の解消をはかり、1979年にカーター大統領と華国鋒首相により国交が正常化された。
- 2 日中両国も関係改善をはかり、1972年に平和条約を締結、1978年に国交正常化を果たした。
- 3 1979年2月、中国はソ連と軍事同盟を締結したベトナムに対して「懲罰」のための武力行使を行った。
- 4 1970年代の後半になると、米ソ関係は悪化し、1979年12月にソ連がアフガニスタンに侵攻すると、新冷戦と呼ばれる緊張状態に入った。
- 5 1982年9月、中国の胡耀邦総書記は「独立自主外交」への転換を明示し、ソ連への対抗路線を一層強化した。

問13 下線部⑫のゴルバチョフがソ連共産党書記長になって推進した政治・経済改革とは何か。正しい語句を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問14 **B** に入る人名として、中国の改革開放政策の「総設計士」と呼ばれていた人物を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問15 下線部⑬と時期を同じくして発生した、民主化を要求する学生・労働者を中国政府が武力で抑え、国際的に厳しい批判を受けた事件とは何か。正しい語句を解答用紙(その2)に記入しなさい。

問16 下線部④の要素として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、
解答用紙(その1)の **21** にマークしなさい。

- 1 領土・主権の尊重 2 集団的安全保障 3 相互不可侵
4 相互内政不干涉 5 平等互惠

問17 下線部⑤に関連して、ソ連崩壊前後の状況の説明として誤っているものを
選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **22** にマークしなさい。

- 1 1989年、ゴルバチョフ書記長とアメリカのブッシュ大統領は、マルタ
会談で「新しい時代の到来」を確認しあった。
2 1991年、保守派の画策したクーデタの成功により、ソ連共産党は解体
した。
3 1991年末にはロシアを中心とした11の共和国による独立国家共同体
(CIS)が発足し、ソ連は消滅した。
4 ロシア連邦の初代大統領にはエリツィンが就任し、市場経済を取り入れ
た再建を進めた。
5 1994年には、ロシアからの独立を宣言したチェチェン共和国に武力介
入して国際世論の批判を浴びた。

次の問題 **III** は法学部 A 方式受験者のみ解答のこと。(国際政治経済学部受験者は 18 頁以下の問題 **III** に解答のこと。)

III 次の文章を読み、問 1 から問 10 までの設問に答えなさい。

中央アジアでは、14 世紀半ば頃、チンギス・ハンの子によって建国された遊牧国家が東西分裂を起こすと、分裂後の西側国家における混乱に乗じてティムール朝^①が誕生した。また、西アジアでは、タブリーズやスルターニーヤを都とした^②モンゴル王朝が 1353 年に滅亡したが、この王朝で成熟した文化が中央アジアに伝播したことによって、トルコ＝イスラーム文化が形成された。

1299 年にアナトリア西北部で建国されたオスマン帝国は、第 10 代皇帝スレイマン 1 世の治世下で最盛期を築いた。この帝国は、約 620 年間も続いた^③イスラームの大帝国^④であり、主にキリスト教徒である西欧諸国の人々に特権的治外法権(カピチュレーション)を認め、西欧諸国との外交・貿易関係を深めようとしたほか、17 世紀末までは積極的な領土拡大政策で獲得した広大な地域を支配下に置き、欧州諸国との間で軍事的勢力関係の均衡を保った。

16 世紀になると、イラン地域にサファヴィー朝が誕生し、初代君主であるイスマーイール 1 世は、遊牧国家の国内統一を図るために国教を定めた^⑤ほか、君主の称号としてシャー(王)を採用した。この王朝は、第 5 代シャーの治世下で最盛期を築き、内政改革とヨーロッパ諸国との交易・外交、新首都の建設を通じて栄華を誇った^⑥が、18 世紀前半にトルコ系王朝によって倒されると、この地域はその後、ロシアとの抗争やイギリスによる半植民地化など、抗争と混乱の時代を迎えることになる。

インド地域では、1526 年にインド史上最大のイスラーム国家であるムガル帝国^⑦が誕生した。この帝国は 17 世紀まで、胡椒、染料、火薬、綿織物などをヨーロッパ地域やアジア地域の諸国へ輸出し、その代価として諸国から金や銀を獲得する経済大国として発展した。また、イスラーム教がインド全域に広まり、ヒンドゥー文化の影響を受けたことによって、インド＝イスラーム文化が開花した^⑧。しかし、18 世紀になると宗教対立や諸侯の反乱が拡大するようになり、ムガル帝国は衰退の道歩んだ^⑨。

問 1 下線部①のティムール朝に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **23** にマークしなさい。

- 1 中央アジアの大部分を制圧したが、1507年にウズベク族によって滅ぼされた。
- 2 建国者(初代君主)はトルコ系豪族の出身であり、後に西北インドへ侵入した。
- 3 建国者(初代君主)はオスマン帝国と戦って撃破し、第4代スルタンを殺害した。
- 4 第3代君主は遷都を行い、オスマン帝国と親善関係を維持した。
- 5 ミニアチュールと呼ばれる細密画などの文化が栄えた。

問 2 下線部②に関連して、このモンゴル王朝に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **24** にマークしなさい。

- 1 建国者はチンギス・ハンの孫であり、イスラーム教を国教化した。
- 2 建国者が1258年に滅ぼした王朝は、イスラーム教シーア派を弾圧した。
- 3 第7代君主は、イクター制の導入や税制の確立など、内政安定を重視した。
- 4 第7代君主の宰相である歴史家の著書『集史』は、モンゴル史の重要史料である。
- 5 キプチャク・ハン国とは対立関係に、元朝とは友好関係にあった。

問 3 下線部③のオスマン帝国に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **25** にマークしなさい。

- 1 1362年、バルカン半島のアドリアノーブルを奪取し、その後、約1世紀にわたって帝国の首都とした。
- 2 1396年、ニコポリスの戦いでバルカン諸国など連合十字軍を撃破した。
- 3 1453年、コンスタンティノーブルを占領してビザンツ帝国を滅ぼした。
- 4 1529年、神聖ローマ帝国の都を包囲したが、西欧諸国連合軍の反撃を受けて撤退した。
- 5 1538年、スペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊を撃破し、地中海域のほぼすべてにつき制海権を獲得した。

問 4 下線部④のスレイマン1世に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **26** にマークしなさい。

- 1 エジプトの王朝を滅亡させ、メッカ・メディナの支配権を得てイスラーム世界における覇権的地位を確保した。
- 2 ハンガリー王国と戦ってハンガリー王ラヨシュ2世を戦死させ、その後、ハンガリーを分割して主要地域を支配下に置いた。
- 3 建築家ミマーリ・シナンに命じて、イスタンブルにスレイマン・モスクを建てさせた。
- 4 内政面では中央集権体制を整備し、外交面ではフランス王フランソワ1世と同盟関係を築き、西欧諸国に対する圧力を強めた。
- 5 法典や法令集の編纂など帝国支配の制度を整備した業績から「立法者(カーヌーニー)」と呼ばれた。

問 5 下線部⑤に関連して、オスマン帝国の法や制度に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 27 にマークしなさい。

- 1 非イスラーム教徒の共同体(ミット)が形成され、共同体の構成員に従来の信仰や慣習を認めるとともに、オスマン帝国への貢納の義務を課した。
- 2 刑事法や家族法をはじめとする各種の法のほか、礼拝などの宗教儀礼に関する規範を定めたイスラーム法(シャリーア)が普及していた。
- 3 シャリーアを補充する法体系としてカーヌーンを採用し、スルタンの勅令や慣習法も帝国の法規範の一部とした。
- 4 捕虜や非イスラーム教徒をイスラーム教徒に改宗させて、帝国の官僚や兵士として強制徴用する制度(デウシルメ)を採用していた。
- 5 騎士(シパーヒー)には分与地の所有権(ティマール)が与えられた一方、所有面積に応じた人数の部下を率いて軍事奉仕を行う義務が課せられていた。

問 6 下線部⑥に関連して、この国教とされた宗教に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 28 にマークしなさい。

- 1 この宗教は、第4代正統カリフとその子孫のみをムハンマドの正当な後継者と認めるイスラーム教分派である。
- 2 この宗教は、イラン・イラク地域で現在も存続しており、「ムハンマドの言行・慣行」に従う者を意味するイスラーム教分派と対立関係にある。
- 3 この宗教の分派である十二イマーム派は、第4代正統カリフとその妻の直系12人のみを「真の指導者」とするものであり、国教の主要宗派を構成していた。
- 4 この宗教の分派であるイスマーイル派は、10世紀にアフリカ東部で建国されたファーティマ朝では国教と定められた。
- 5 この宗教は、現代のイスラーム教分派では少数派を構成しており、多数派よりも神秘主義的傾向が強く、聖者崇拜が多数派よりも広く行われている。

問 7 下線部⑦に関連して、サファヴィー朝に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **29** にマークしなさい。

- 1 特権階層の遊牧民(キジルバシュ)を弾圧し、人材登用のあり方を見直した。
- 2 交易上の重要拠点ホルムズ島をスペインから奪回した。
- 3 アゼルバイジャンとイラクの主要都市をオスマン帝国から奪回した。
- 4 新首都にはイギリスの東インド会社の商館が建設され、交易が盛んに行われた。
- 5 建築や美術が著しい発展を遂げ、新首都にはイマームモスクが建設された。

問 8 下線部⑧に関連して、この国家の歴代皇帝に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **30** にマークしなさい。

- 1 初代皇帝は、ティムール朝の再建を目指したがウズベク族に敗れ、その後はインドへ進攻し、パーニーパットの戦いでロディー朝を撃破した。
- 2 第3代皇帝は、統治機構の中央集権化を推進し、人頭税ジズヤを廃止したほか、ラージプート諸王国に対し宥和政策を採用した。
- 3 第3代皇帝は、すべての官僚を序列化し、位階に応じた騎兵・騎馬の準備を義務付けるという位階制度(マンサブダール制)を導入した。
- 4 第5代皇帝は、インド=イスラーム文化の最盛期をもたらし、タージ・マハルを造営したが、晩年は第6代皇帝によって幽閉された。
- 5 第6代皇帝は、厳格なシーア派教徒であり、ヒन्दゥー教の弾圧や寺院の破壊を行ったほか、積極的な外征に伴う戦費増大で財政を悪化させた。

問 9 下線部⑨のインド＝イスラーム文化に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 31 にマークしなさい。

- 1 ミニアチュールと呼ばれる細密画がイランから伝来し、その後、ムガル絵画とラージプート絵画へ発展を遂げた。
- 2 ムガル絵画は宮廷絵画で、花鳥や動物を写實的に描いたものが多く、第4代皇帝の治世下ではヨーロッパ絵画の影響も受けた。
- 3 ラージプート絵画では、ヒンドゥー教における三大神の一つであるヴィシュヌ神の信仰に関わるものが多く題材に使われた。
- 4 第3代皇帝が著した回想録は、ムガル王家の歴史を題材とする散文学作品であり、初代皇帝が著した回想録と並んで文学史上の傑作と評される。
- 5 北インドの方言とアラビア語・ペルシア語が融合した言語としてウルドゥー語が誕生し、この言語は現在ではパキスタンの国語となっている。

問10 下線部⑩に関連して、ムガル帝国をめぐる動きに関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 32 にマークしなさい。

- 1 デカン高原に建国されたニザーム王国、ガンジス川中流域に建国されたアウド王国などをはじめ、ムガル帝国から自立する国家が急速に出現した。
- 2 カースト集団マラーター族は、17世紀中頃に王国を建て、ムガル帝国と抗争を繰り返しながら発展を遂げた。
- 3 ラージプート族やシク教徒はムガル帝国の抑圧政策に激しく抵抗し、シク教徒は教団の軍事化を進めて19世紀には王国を建設した。
- 4 南インドのマイソール王国が、フランスの支配下で軍事的勢力を拡大し、ムガル帝国への侵入を繰り返し試みた。
- 5 19世紀中頃、シパーヒーの武装蜂起を端緒とする大規模な民族独立運動が展開されたが、ムガル帝国皇帝の復権には失敗した。

次の問題 **III** は国際政治経済学部受験者のみ解答のこと。(法学部A方式受験者は12頁以下の問題 **III** に解答のこと。)

III 次の文章を読み、問1から問10までの設問に答えなさい。

中国の清代初期には清朝による厳しい思想統制が行われたが、考証学の誕生が後に歴史学の発展に寄与したほか、文学の分野も栄えて多くの優れた作品が登場した。^① また、清朝はイエズス会宣教師からヨーロッパの優れた科学技術を導入した^② が、清朝第5代皇帝雍正帝はキリスト教の布教活動を禁止した。他方、中国の歴史や文化、思想などに関する宣教師の見聞報告は、西欧諸国の人々の間で中国に対する関心を高め、18世紀の西欧諸国における啓蒙思想や芸術に多大な影響を及ぼした。

ヨーロッパの近世は科学革命の時代とも呼ばれ、自然科学の研究が急速に進展した^③ ほか、帰納法の思考方法に基づく経験論、演繹法の思考方法に基づく合理論など、近代哲学がイギリスやフランスで形成され発展した。^④ また、人間や社会に対する深い理論的考察も展開されるようになり、自然法や啓蒙主義などの社会・政治思想が誕生した^⑤ ほか、啓蒙思想は経済学の理論的發展にも影響を及ぼした。さらに、近世ヨーロッパの美術や音楽^⑥ に視線を転じると、そこには宮廷文化と市民文化という2つの際立った特徴を見出すことができ、特に後者については、「生活革命」と呼ばれるほどの生活様式の変化に伴って、市民の趣味嗜好を反映した文学作品や生活空間の出現^⑦ をみた。^⑧

19世紀になると、イギリスで始まった産業革命は諸国へ広く展開していたが、国富増大の一方で労働者の暮らしは劣悪であったため、社会的不平等の是正と経済的平等の実現を目指す社会主義の思想と運動が起こった。この当時の社会主義者は、資本主義体制の変革や打倒^⑨ を求めて労働者階級の国際的連帯を叫ぶなど、生産手段の共有化による理想の民主的社会の建設を主張し、その後の現代に至る社会経済思想やその実践にも大きな遺産を残した。また、法学、経済学、歴史学などの社会科学諸分野で多くの学問的進歩^⑩ が見られ、現代の国家や社会秩序の形成・発展に大きく寄与している。

問 1 下線部①に関連して、清代に登場した文学作品名とその説明文の組合せとして誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の

23 にマークしなさい。

- 1 『長生殿伝奇』—洪昇による戯曲。玄宗と楊貴妃の悲恋物語。
- 2 『桃花扇伝奇』—孔尚任による戯曲。明朝末期の動乱の世情を描写。
- 3 『儒林外史』—吳敬梓による長編小説。官僚制度の腐敗を批判。
- 4 『紅樓夢』—曹雪芹らによる長編小説。貴族の栄枯盛衰を描写。
- 5 『聊齋志異』—蒲松齡による小説集。三国時代の豪傑らを雄大に描写。

問 2 下線部②に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 24 にマークしなさい。

- 1 大規模測量に基づく地図『皇輿全覽図』の作製を命じたのは、清朝第4代皇帝の康熙帝であり、この皇帝は1681年に三藩の乱を鎮めた。
- 2 アダム・シャルが明代末期に作製した『崇禎暦書』は清代で新たな暦として実施され、彼は清代において天文台長官(欽天監正)を務めた。
- 3 ギリシアの数学者エウクレイデスが著した幾何学書を漢語訳した徐光啓は、マテオ・リッチと協力して新たな暦法の導入を清朝に働きかけた。
- 4 ベルギー出身のイエズス会宣教師であるフェルビーストは、布教のほか、暦法や大砲鑄造など西洋学術の導入に貢献した。
- 5 イタリア出身のイエズス会宣教師であるカスティリオーネは、北京郊外に建設された円明園と呼ばれる離宮を設計し、バロック様式と中国様式を融合した。

問 3 下線部③に関連して、自然科学分野の人物に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **25** にマークしなさい。

- 1 イギリスのニュートンは近代物理学の創始者として知られ、研究成果の集大成として『プリンキピア』の略称で呼ばれる書物を残している。
- 2 イギリスのジェンナーは、近代免疫学の創始者として知られ、種痘法を開発したほか、血液循環説を提唱した。
- 3 スウェーデンのリンネは植物分類学を確立し、後年における進化論の発展に寄与する研究上の功績を残した。
- 4 フランスのラヴォワジエは、質量保存の法則など化学界に残した功績で知られるが、フランス革命期にギロチン処刑を受け不遇の死を遂げている。
- 5 フランスのラプラスは宇宙進化論を提唱し、宇宙の成立や変化を科学法則から明らかにしようと試みた。

問 4 下線部④に関連して、哲学分野の人物に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **26** にマークしなさい。

- 1 イギリスのフランシス・ベーコンは、未完の主著『新オルガナム』のなかで帰納法を説き、事実の観察に基づく一般法則の科学的認識を重視した。
- 2 イギリスのロックは、著書『人間悟性論』のなかで経験論を主張し、フランス革命の思想的背景となる啓蒙思想に多大の影響を及ぼした。
- 3 イギリスのヒュームは、すべての物事は単純な実体(モナド)であり、それらの相互関係は神による予定調和であるとする哲学(单子論)を主張した。
- 4 ドイツのカントは、人間の認識能力の限界に着目することで批判主義に立脚し、経験論と合理論を総合・統一した。
- 5 オランダのスピノザは、数学的合理主義の立場から汎神論を主張し、物質と精神を神の属性とみたことによって教会から異端視された。

問 5 下線部⑤に関連して、社会・政治思想分野の人物などに関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 27 にマークしなさい。

- 1 自然法の考え方は社会契約説の基礎であり、人間の生存権や基本的人権を重視する考え方に発展し、絶対王政を打倒する際の思想的支柱となった。
- 2 オランダのグロティウスは、著書『海洋自由論』のなかで航海や貿易の自由を主張した「国際法の祖」として知られるが、宗教問題が原因で投獄された。
- 3 フランスのルソーは、著書『人間不平等起源論』のなかで絶対王政下のフランス社会を批判し、人間の不平等の原因を私有財産制に求めた。
- 4 フランスのモンテスキューは、著書『ペルシア人の手紙』のなかでフランス社会を痛烈に批判したほか、法律制度を論じて王権を制限すべきと説いた。
- 5 フランスのヴォルテールは、宗教者の偽善やカトリック教会を批判した一方、著書『哲学書簡』のなかでイギリスの急進性を批判して自国を擁護した。

問 6 下線部⑥に関連して、経済学分野の人物などに関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 28 にマークしなさい。

- 1 「なすにまかせよ」の標語を掲げる経済思想は、農業生産こそが国富の基礎であると主張し、経済の流通過程(貿易)よりも生産活動を重視する思想である。
- 2 貿易黒字の拡大こそが国富の基礎であると主張する経済思想は、元来は絶対王権の維持に莫大な財政資金を必要とするために採用された思想である。
- 3 アダム・スミスに代表される自由主義経済学は、近代自然法に基づく経済理論であり、絶対王政諸国で広く採用された経済思想とは相容れないものである。
- 4 フランスのテュルゴーは、ディドロらが編集した事典『百科全書』に執筆した経済学者であり、ブルボン朝の財務総監として財政再建に成功した実務家でもある。
- 5 フランスのケネーは、著書『経済表』のなかで自由放任主義による農業生産の増大を主張したが、この著書は経済学に関する体系的著作として評価されている。

問 7 下線部⑦に関連して、この時代の画家に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **29** にマークしなさい。

- 1 フランドル派の画家ファン・ダイクは、イギリスの宮廷画家として生き、チャールズ1世などの肖像画を描いた。
- 2 フランドル派の画家ルーベンスは、宮廷画「マリ・ド・メディシスの生涯」をはじめ、宗教や歴史に題材を求めた様々なジャンルの作品を残している。
- 3 ロココ様式の画家ワトーは、「シテール島への船出」などの田園・宮廷画を描いており、その優雅な画法で広く知られている。
- 4 ロココ様式の画家ベラスケスは、「ブレダの開城」などの風景画・肖像画を描いた宮廷画家であり、17世紀スペインの代表的画家である。
- 5 オランダ画派の画家レンブラントは、近代の油絵技法を確立し、明暗を強調する優れた画法で市民生活を力強く描いた。

問 8 下線部⑧に関連して、文学や生活文化に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の **30** にマークしなさい。

- 1 詩人ミルトンは、長編叙事詩『失樂園』のなかで神の摂理を説くことを試みるなど、ピューリタン文学の代表的詩人として知られる。
- 2 劇作家バンヤンは、キリスト教徒が理想を実現する過程における苦難を描写するなど、深い人間観察に基づく古典主義悲劇の作品を多く残した。
- 3 作家スウィフトは、聖職者や政治活動家としても知られており、風刺小説『ガリヴァー旅行記』のなかでイギリス社会を痛烈に批判した。
- 4 小説家デフォーはジャーナリストでもあり、政府批判の活動等が原因で刑罰を科されたが、晩年に発表した小説『ロビンソン・クルーソー』が好評を博した。
- 5 イギリスではコーヒーハウスが、フランスではカフェが登場し、市民が政治経済や芸術などを論ずる世論形成の場としても機能した。

問 9 下線部⑨に関連して、社会主義の思想家に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 31 にマークしなさい。

- 1 ロバート・オーウェンは、イギリスで工場法の制定に尽力したが、フランスで理想的共同社会の建設を試みて失敗した。
- 2 サン・シモンは、資本家と労働者の対立を問題とせず、労働者階級は使用者の保護を受けるべき存在であると主張した。
- 3 フーリエは、協同組合的理想社会(ファランジュ)の実現を主張し、資本主義社会を厳しく批判した。
- 4 プルードンは、無政府主義を主張し、「財産、それは窃盗である」と述べて労働によらない私有財産に批判を加えた。
- 5 マルクスは、社会主義体制への移行が必然であると主張したほか、哲学では弁証法的唯物論を大成し、経済学では古典派経済学を批判した。

問10 下線部⑩に関連して、社会科学諸分野の人物に関する説明として誤っているものを次の選択肢の中から1つ選んで、解答用紙(その1)の 32 にマークしなさい。

- 1 『経済学及び課税の原理』を著したイギリスの古典派経済学者は、生産活動に費やす労働投入量が生産物の価値を決めると主張した。
- 2 『人口論』を著したイギリスの古典派経済学者は、人類の貧困化は予防可能であるとして、食料増産ではなく人口抑制による貧困問題の解決を主張した。
- 3 『政治経済学の国民的体系』を著したドイツの歴史学派経済学者は、経済が発展途上である国家における保護貿易政策の必要性を説いた。
- 4 『世界史』を著したドイツの近代歴史学者は、史料の厳密な批判的検討から史実を実証的に叙述することを重視し、歴史学の画期をもたらした。
- 5 『中世ローマ法史』を著したドイツの法学者は、法の普遍性を唱える自然法学を批判し、法はその国民固有の歴史的所産であると主張した。



